
四十川(あいかわ)

木下遊宇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あいかわ
四十川

【Nコード】

N7939H

【作者名】

木下遊宇

【あらすじ】

僕の日常。それは何の意味もない、なんの特徴もない、平坦なものだった。しかし、いつの間にか僕は四十川^{あいかわ}という少女に、その珍しい苗字につられて話しかけていた。その時は何も起こらなかった。なのに、どうしてなんだろう。いつから、いつから…。

日常

・B o k u

二〇〇五年 一月二十一日

彼女は始めて会ったときと変わらない目をしていた。ただただ空虚で、墨汁をたらしたような黒色。眉も、口も、何もかもが微動だにしない。

それは見るに耐えないような光景であつたが、僕は漠然とした恐怖ではなく、ぼんやりと懐かしい気持ちさえ感じていた。罪悪感はずっと感じない。玩具が壊れた時と同じ心持だつた。

おそらく彼女について何の知識もなく、ただの美しい少女だということしか知らない人間は、悲しい表情をして彼女の前で黙祷をささげ、これほどまでに美しい少女が世の中から消えてしまったことを悲しむ。

実際、僕の周りにはかなりの人がいて、おそらくその大部分は野次馬や、好奇心ばかりが先走ってここに来たような人間ばかりだろうが、その中に、この目の前に醜い姿を曝け出している少女の事を知っている人間はいないだろう。それが僕を安心させていた。

安心して、目の前にいる少女を見ていられた。

二〇〇五年 十月三十一日

涼しい夜が続いていた。僕は秋が好きだった。夏ほど暑苦しくないし虫もほとんどいない。冬ほど寒すぎることはないし、布団の準備が楽だからだ。布団に寝転がりながらそんな風に思い、なんてつまらない考えた、と呟いた。

窓は半分だけ開いていて、カーテンのレースは開放してある。そのため、月明かりが窓から差し込んでいて、その明かりはぼんやりと部屋全体を照らしていた。

枕元においてある携帯電話を手についた。着信履歴を見る。

「また四十川か……」

着信履歴の一番上の欄には”四十川結衣”の文字が映っていた。

その下の欄にも、四十川結井の文字。その下にも。そのまた下にも。六つほどその文字は並んでいて、それぞれかかってきた時間は1時間ずつ離れていた。

帰宅したのが六時ぐらいだから……今の時間は一二時二〇分。もしかして、一時にまたかかってくるのか……？

女子からの電話は嬉しい。それはそうだ。しかしここまでとなると、嬉しさを通り越して不気味な感じた。

携帯電話を放り投げる。偶然ゴミ箱に入っ

てしまったが、起き上がってゴミ箱まで取りにいく気力がなかった。「？」

僕は布団に寝転がりながら、異常なほどにかかってくる電話の原因を考え始めた。しかし、何も思い当たることはなかった。

「……………どうしたもんかね……………」

そう呟きながら、僕は眠った。

……………

時間は三日前に遡る。昼休みの時間中、特にやることもない僕は、机に突っ伏して眠っていた。中学三年生の二学期にもなると、僕の周りにもちらほらと休みの時間中にも勉強をしている生徒が出現していた。

けれどそれらの生徒が全員個人的な勉強をしているといったらそうではなく、全体の三分の二ぐらいの生徒は次の授業の宿題や、塾の宿題やらを終わらせようとしていた。僕のように昼休み中堂々と寝ている生徒は僕以外にいなかった。

こんなことは良くあることだったし、周囲の生徒たちも全く僕のことを気にかけていなかった。だから僕は、五元目開始のチャイムが鳴るまで寝ようと思っていた。しかし、僕の思いどおりにはいかなかった。

「おい、おいおい！」

という声と同時に僕の肩は前後に大きく揺れた。机に突っ伏して寝ていた僕は、それによって額を強く打った。

「いてっ！……………誰だ！……………あ？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7939h/>

四十川(あいかわ)

2010年10月9日05時15分発行